

# バスケットボールシューズの機能性に関する研究 A study on the functionality of basketball shoes

1K07B517-6

指導教員 主査 倉石 平 先生

中村 圭

副査 礒 繁雄 先生

## 【目的】

現在スポーツシューズ市場は、国内外を問わず実に様々な機能を持った商品であふれており、近年のスポーツシューズにおける機能面の進化・発展は目覚ましいものがあるといえる。このことはバスケットボールシューズにおいても同様である。上下左右あらゆる方向への運動が求められるバスケットボールでは、それらの動きをサポートしパフォーマンスを向上させる機能が日々追求され、革新的な技術が開発されている。

本研究では、バスケットボールシューズの機能面における歴史や変遷について調べ、バスケットボール競技者がどのような機能を重視してバスケットボールシューズを選択するのか明らかにすることを目的とする。また、ポジションや所属の違いという観点から相違が見られるかどうか、今後バスケットボールシューズはどのような発展を遂げていくのかを検討・考察していく。

## 【方法】

2010年11月30日にナイキジャパンに対してインタビュー調査を行い、ナイキのバスケットボールシューズにおける機能の歴史と変遷について調査した。

また、2010年11月22日から2010年11月29日の間に、中学校・高校・大学の男子バスケットボール部および大学のバスケットボール同好会に所属する競技者を対象に、質問紙による調査を行った。

## 【結果と考察】

インタビュー調査では、ナイキのバスケットボールシューズはエアという革新的なクッションングシステムの開発から始まり、より着用者の足にフィットするフィッティングシステムの開発、シューズの軽量化にともなうフライワイヤーの開発という流れで、様々なテクノロジーが開発されてきたことがわかった。

質問紙調査では、どのカテゴリーに所属する競技者も「フィット感」「グリップ力」「重量」を重視していた。「重量」に関しては、どの年代においても「軽さ」を選択する者と「普通の重さ」を選択する者の人数にほとん

ど差異は見られなかった。また、同好会以外の年代の競技者は、シューズのカットの高さを重視していなかった。

ポジション別による比較では、すべてのポジションにおいて「フィット感」と「グリップ力」を重視していた。筆者が調査前に「ローカット」のシューズを選択すると想定していたポイントガードとシューティングガードにおいては、「カットの高さ」自体を重視しておらず、想定していた内容とは異なっていた。今後の開発を期待する機能の、ポジション別による相違では、すべてのポジションの競技者が「次のプレー動作への移行が速くなる、グリップ力及び反発力の強いバスケットボールシューズ」の開発を期待していた。「履いていて重さを感じないほど軽いバスケットボールシューズ」は、すべてのポジションにおいて選択する人数が少なく、筆者が想定していた内容とは異なっていた

## 【まとめ】

クッションングを追求することから始まったバスケットボールシューズの機能の歴史は、フィッティングシステムの開発を経て、軽量化への道をたどり始めるが、今後は更なる軽量化が目指されていくと考えられる。今後革新的なシステムが開発されていくと共に、バスケットボールシューズはより裸足に近い感覚でプレーができるものへと進化していくであろう。

また、質問紙調査の結果、バスケットボール競技者の多くが、バスケットボールシューズには機能性が重要であると考えている。すべてのポジションにおいて「フィット感」や「グリップ力」が求められていることから、従来のものよりさらに履き心地を追求したフィッティングシステムや、動作の移行をスムーズにするグリップ力・反発性を兼ね備えた新しいソールの開発が望まれる。